資料コーナー

研究人材の国際流動の増大と獲得競争の激化

出典：文部科学省　平成 21 年版 科学技術白書（http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa200901/1268148_005.pdf）より抜粋

1. 研究人材の国際流動の増大と獲得競争の激化

イノベーションのオープン化，グローバル化の進展と並行して，研究者も国境を越えて移動し，自国以外で容易に研究活動を行なうようになった。また，将来，研究を担うと考えられる留学生も増加しており，国際的な移動が活発となっている（図 1）。このような状況の中で，多くの国々においては，優秀な人材を自国に惹き付けるための受入れ政策や環境整備を積極的に推進している。中国やインド等の新興国では，自国におけるイノベーションの創出のため，諸外国から優秀な人材を獲得する動きが活発になっている。

近年，人材の国際流動が高まっている中で，イノベーションの創出に向け，優れた研究者や留学生を自国に惹き付けようとする人材獲得競争が激化している。

2. 我が国における研究者等の受入れの状況

我が国の研究開発力の維持・強化を図る上では，内外から優秀な人材を研究者として確保することが極めて重要であり，特に，海外から優秀な研究者を獲得する必要性が一層高まっている。

我が国の受入れ状況は，平成 15 年に「留学生受入れ 10 万人計画」の目標を達成したものの，他の主要先進国と比べると低調である（図 2）。このため，大学等や研究開発法人においては，特色ある魅力的な研究を進めることなどにより，多様な価値観やキャリアを持つ留学生や研究者を海外から積極的に受け入れていくことが重要である。

3. 我が国研究者の国際流動等の現状

我が国の研究者が国内外において様々な研究の場を経験するよう，研究者の流動性の向上を図ることは，想像性豊かで広い視野を有し，国際的な研究者のネットワークの中でも活躍できる研究者を養成する上で重要な課題となっている。

我が国の研究者の国内外の流動性を見ると，これまでに異動した経験がある者の割合は 66.1%と過去の調査結果に比べて増加しているものの，そのうち海外勤務経験のある者の割合は 10.6%にとどまっている（図 3）。また，すべての回答者のうち，近い将来海外で研究を行なう予定のある者は 2.0%と非常に少なくなっており，我が国の研究者の内向き志向が鮮明に表れている（図 4）。

このように，我が国の研究者の海外への異動や派遣は低調であり，国際的な流動性の高まりの中で，我が国の研究者が国際的な研究者のネットワークから取り残されつつあることが懸念される。

図 1　高等教育における国外留学生数の長期的増加

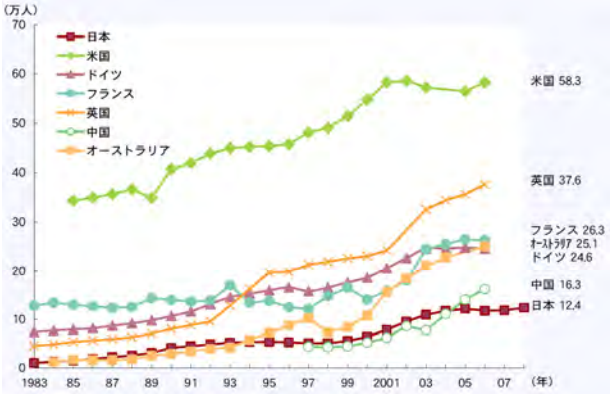
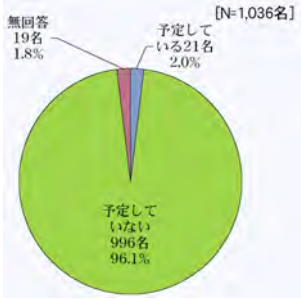


図 2　主要先進国における留学生の受入れ者数の推移

図 3　経歴における異動経験及び海外勤務経験の有無



注：Nは全回答者数

図 4　近い将来，海外で研究を行なう予定の有無

川合弘敏（東芝）

（平成 22 年 4 月 14 日受付）

© 2010 The Institute of Electrical Engineers of Japan.